

宇部市総合計画審議会健康福祉分科会（第5回）議事録 【要旨】

日 時 平成21年4月30日（木）15：45～18：30

場 所 宇部市役所2階 第2会議室

出席者（委員）倉重龍昌 有田信二郎 西村伸子

（事務局）新総合計画策定室長補佐 河村真治

（専門部会）健康福祉部次長 岡田利三 健康福祉部次長 滝川洋子

欠席者（委員）中野朋子

1 健康福祉分野における今後の方向性（SWOT分析の検討）について

<教育文化分科会との意見交換について>

健康福祉分科会で検討中の戦略の中に、教育文化分科会における検討内容と問題意識が重なり合うもの（高齢者の知識・経験の活用、ふれあいセンターの活用など地域コミュニティにおける取組、子育ての環境づくり）や、取組に際して教育部門との連携が不可欠なもの（発達障害等のある子供たちへの支援）があったため、健康福祉分科会委員長の呼びかけにより、健康福祉分科会の戦略について両分科会の意見交換を行った。

意見交換では、両分科会に共通する問題意識について確認しあった後、主に発達障害等のある子供たちへの支援について議論した。

まず、健康福祉分科会の委員から、子供たちの集団力の低下や、発達障害等のある子供の増加に対して、今適切な対応を採らなければ、将来の社会に禍根を残すことになるという問題意識が示された。

次いで、教育文化分科会の委員、専門部会からは教育現場での対応の現状が述べられ、健康福祉分科会委員からは、更なる取組の強化（発達障害等のある子供が通常の学級に在籍しながら、障害に応じた個別の指導が受けられる通級教室を、学校ごとに整備するなど）の必要性について問題提起が行われた。

なお、従来分科会で用いてきた「気になる子供たち」という用語を、対象者を明確にし、また教育分野の用語との共通化を図るため「発達障害等のある子供たち」に変更した。

<他分科会に関連する戦略の整理について>

SWOT分析の戦略について、事前に事務局において、各分科会で提案された他の分科会に関連する戦略を整理し、各分科会においてその取扱いを検討することとした。

健康福祉分科会関連では、「高齢者の生活交通の確保」「情報通信インフラ整備による若者の定住促進」「高齢者が働ける環境整備」の戦略において、生活環境分科会や産業振興分科会に関連する戦略があったため、「情報通信インフラ整備」関連の戦略については、他の分科会に委ね、その他の戦略については、健康福祉関連の戦略として視点を明確化するため内容の修正を行うことになった。

<まちづくりの目標について>

各委員が事前に用意したまちづくりの目標の私案を基に議論し、協議の結果、「ひとり一人が心豊かに安心して暮らせるまち」を健康福祉分野のまちづくりの目標とすることとした。

「ひとり一人が」という言葉には、単に全員という画一的な概念ではなく、多様性の尊重への想いが込められている。

「心豊かに」という言葉には、多様性の尊重の下で、誰もが能動的に自己実現を目指すことを意味している。

「安心して」という言葉には、自己実現を目指す市民を、常に健康福祉のネットワークが取り巻き、その自己実現を支援していくことを表している。

このような、健康福祉のネットワークの中で市民誰もがいきいきと「暮らせるまち」を実現することを、12年後の目標とした。

この目標設定の過程で、これまで当分科会で議論の中でキーワードのひとつとなっていた「健康都市」という言葉を目標中に盛り込むか否かについて、さまざまな視点から検討した。

「健康都市」とは、元来WHO（世界保健機関）で用いられている用語で、「健康都市とは、健康を支える物的および社会的環境を創り、向上させ、そこに住む人々が、相互に支え合いながら生活機能を最大限に生かすことのできるように、地域の資源を常に発達させる都市である。」と定義される。

その取組においては、社会的、経済的、身体的環境が都市に住む人の健康の鍵を握るという考えに基づき、都市化とともに生じる健康に関する問題の解決には、健康部門と従来までは健康とあまり関係のない部門間の協力が必要とする点で、従来の健康への取組と異なっている。

この取組のため、国際的には2004年10月に健康都市連合が設立され、日本にも支部（支部長：市川市、2008年7月現在25市加入）が置かれている。

【参考】健康都市連合日本支部ホームページ

<http://japanchapter.alliance-healthycities.com/healthycity.html>

この「健康都市」という言葉を、従来の受動的な健康福祉の印象を能動的なものに転換するキーワードとして目標中に掲げるべきという意見があった。

一方、「健康都市」という言葉は、健康福祉分野を超えたまちづくりの基本理念ともいうべき概念を示すもので、健康福祉分野の目標として置いた場合、単なる心身の健康と矮小化され正しく理解されないおそれがあり、また、健康福祉分野の目標として、実行計画以下の健康福祉の施策と結びつけることが困難で実効性がないという意見があった。

議論の結果、「健康都市」という言葉そのものを目標中に掲げることはせず、健康福祉分野から他分野への働きかけを通じて、「健康都市」の実現を図る取組を戦略中に盛り込むこととした。

<優先戦略について>

分野別の目標を達成するための優先戦略として、「地域に根ざした健康福祉の充実」を選んだ。

これは、地域コミュニティの中に健康福祉の取組の核をつくることを通じて、まず地域レベルから、自己実現の支援のための健康福祉のネットワークを築き、全市的に展開していくことが、目標達成に有効と考えることによる。